

令和8年度

山形県公立高等学校入学者選抜
後期（一般）選抜学力検査成績概況

令和8年5月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

- 1 結果の考察 1
- 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 1
- 問題別正答率（%） 2

社 会

- 1 結果の考察 3
- 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 3
- 問題別正答率（%） 4

数 学

- 1 結果の考察 5
- 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 5
- 問題別正答率（%） 6

理 科

- 1 結果の考察 7
- 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 7
- 問題別正答率（%） 8

英 語

- 1 結果の考察 9
- 2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント） 9
- 問題別正答率（%） 10

参考資料

令和8年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

（入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等）

- 1 年度別比較 11
- 2 課程別・学科別 12
- 3 前期（特色）選抜実施状況 13

国語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

㊦の問六は、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える力をみる問題だが、正答率は高く、「読むこと」の力が身に付いていることがうかがわれる。文学的な文章においては、人物相互の関係を捉え、その関係に基づいた行動や会話、情景などに注意しながら読むことを大切にしたい。㊧の問三は、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉える力をみる問題だが、正答率は高く、学習の成果がみえる。各段落が文章全体の中で果たす役割について捉え、それが書き手の考えを伝える上でどのような説得力や効果をもたらしているかなどを考えながら読むことを心掛けたい。㊨の作文は、資料に示された情報を整理し、理由を明確にししながら自分の伝えたいことを表現する力をみる問題だが、6割を超える受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校から「資料の読み取りを踏まえた考えを書くことができていない」という報告も寄せられている。書く目的や意図に応じて、情報を整理した上で、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが大切である。

(2) 課題がみえる問題

㊩の問四は、文章の論理の展開の仕方を捉える力をみる問題だが、正答率が5割にとどまり、課題がみえる。文章全体や部分における構成や論理の展開を把握した上で、論理の展開に飛躍がないかなどについて考える学習に取り組みたい。㊪の問四は、古典に表れたものの見方や考え方を理解する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。現代語訳を手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解することが大切である。㊫の問二(2)は、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する力をみる問題であるが、正答率が低く、課題がみえる。自分の考えを発表する際には、聞き手に応じた語句を選択したり、言葉遣いに注意したりするなど、自分の考えを相手に分かりやすく伝える工夫をすることを心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 国語で正確に理解し、適切に表現することができる

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図りながら、国語で表現された内容や事柄を正確に理解することや、国語を使って内容や事柄を適切に表現することができる。

(2) 自ら進んで読書に取り組むことができる

知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、図書館を活用するなどして、自ら進んで読書に取り組み、多様な情報を活用することができる。

(3) 授業者は、目指す資質・能力の確実な育成に向けた授業計画と評価の工夫を

授業者は、各単元で育成する資質・能力を適切に位置付けた年間指導計画を作成するとともに、言葉による見方・考え方を働かせて深い学びを実現する学習過程を大切にし、資質・能力の育成に適した言語活動の充実を図りたい。その上で、資質・能力が身に付いたかどうかを適切な評価規準に基づいて評価し、指導の改善につなげたい。

二	問	3	3	6	4	3	2	2	2	25	
	問二										
備 考	問二	両方できて正答とする。順序は問わない。									
	問四	本文に即した内容であること。									
問五	問七	ウ	ア	う	を	の	感	言	イ	②	はげ
	問六			と	対	目	情	業			ぼうとう
備 考	問五(例)	と	等	的	に	心	意	味	④		しい
	問四(例)	す	し	沿	を	振	に	つ			
備 考	問三	こ	と	と	て	り	い	て			
	問二	も	対	話	を	れ	の	指			
備 考	問一	に	真	進	ず	に	摘				
	問一	を	め	、	、						
備 考	問一	求	め	互	当	初					
	問一	よ									
備 考	完 解	14.9									
	50~99%	37.4									
備 考	1~49%	17.8									
	完 解	21.8									
備 考	50~99%	48.3									
	1~49%	14.4									

一	問	5	4	2	4	3	3	2	2	2	27
	問七(例)										
備 考	問七(例)	に	相	誕	ふ	エ	ウ	子	ア	く	は(こ)
	問六(例II)	小	手	生	つ			ど	も	た	
備 考	問六(例I)	さ	に	日	う			も	た	ち	
	問五	な	寄	を	の			た	ち		
備 考	問四	歩	り	祝	日						
	問三	み	添	い	を						
備 考	問二	寄	う	た	続						
	問二	り	必	い	け						
備 考	問一	を	要		た						
	問一	繰	り	は	い						
備 考	問一	返	す	く							
	問一	互	い								
備 考	完 解	21.8									
	50~99%	48.3									
備 考	1~49%	14.4									
	完 解	71.3									
備 考	50~99%	83.3									
	1~49%	14.4									

〔注意〕この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

(3) 書写・表記	3	(2) 構想・叙述	6	(1) 内容	9	18
A B C		A B C D		A B C D		
A B C		A B C D		A B C D		

五

【評価の観点】

(1) 内容

- ○ 二つのグラフを見て気づいたことが、明確に述べられているか。
- ○ 「社会と関わるうえで心がけたいこと」という題に即して、理由を明確にしながら、自分の考えを深めているか。
- ○ 第二段落で述べられている内容が、第一段落で述べられている内容を踏まえたものになっているか。

(2) 構想・叙述

- ○ 二段落で構成されており、二〇〇字以上、二四〇字以内で書かれてあるか。
- ○ 第一段落には、二つのグラフを見て気づいたことが述べられ、第二段落には、自分の考えが、その考えた理由を含めて述べられているか。
- ○ 文章の組み立てや展開が適切で、叙述の仕方が的確であるか。

(3) 書写・表記

- ○ 文字が正しく、表記や語句の用法が適切であるか。
- ○ 字形や大きさ、配列など、文字が整っているか。

14点~18点	25.9
9点~13点	40.2
5点~8点	20.7
1点~4点	8.6

3	4	2	2	2	2	2	17
問二							
問二	(2)	(1)	5	4	3	2	1
問一	イ、エ	ア	競	財	至	招	乳
備 考			技	宝	急	く	
備 考	完 解	63.8					
	50~99%	56.9					
備 考	1~49%	72.4					
	完 解	83.9					
備 考	50~99%	69.5					
	1~49%	83.9					
備 考	完 解	90.8					
	50~99%	72.4					
備 考	1~49%	83.9					

4	4	3	2	13
問四(例)				
問三(例)	帝が、蟻を助けたこと。	エ	つたえきまで	
問二				
問一				
備 考				
備 考	完 解	59.8		
	50~99%	55.2		
備 考	1~49%	56.3		

四	問	備 考
問二(2)	すべてできて正答とする。順序は問わない。	

三	問	備 考
問三	本文に即した内容であること。	
問四	本文に即した内容であること。	

社 会

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の3(1)、⑤の1(1)は、基礎的な知識を問う問題だが、正答率が9割を超えており、日常の学習において、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の習得が図られていることがうかがわれる。③の2は、資料を基に、歴史に関わる事象の意味や意義を説明する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。授業において、諸資料などから歴史に関わる事象についての様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる学習が十分に行われていることがうかがわれる。⑥の2(2)は、現代の社会的事象について、資料を基に、思考・判断する力を問う問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。今後も、日常の社会生活と関わりの深い具体的事例から、現代社会の特色を理解する学習を心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

①の1は、世界地図を活用し、世界の地域構成を大観する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。世界の地域構成の特色を、大陸と海洋の分布やおもな国の位置、緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察する学習を大切にしたい。③の4(2)は、各時代の政治や社会の特色を捉える力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を考察する学習や、歴史にみられる国際関係などを理解する学習を心掛けたい。⑤の5は、正答率が低く、課題がみえる。国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みや、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考察するように心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 身近な社会的事象について説明したり議論したりすることができる

身に付けた基礎的な知識を活用して、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を説明したり議論したりすることができる。調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめることができる。

(2) 多面的・多角的に考察する学習に主体的に取り組み、学習の振り返りができる

よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察し、構想（選択・判断）することができる。学習の振り返りを行うことで、自分の学びや変容を自覚し、次の学びにつなげることができる。

(3) 授業者は、学習過程を工夫し、深い学びの実現を

授業者は、既習事項などを生かした単元を貫く課題の設定や、単元構成の工夫により、課題解決的な学習を充実させたい。また、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を育成するため、考察、構想（選択・判断）したことを、根拠（資料から得た情報）や理由（結論に必要な自分の解釈）を明確にして説明・議論する場を充実させたい。さらに、社会的な見方・考え方を働かせる授業をコーディネートし、社会科としての本質に迫る深い学びを実現させたい。

17		1	
2	1	イ	37.0
2	2	ア	71.7
3	3	石炭	45.1
3	4	(1) 遊牧	64.2
2	(2)	イ	68.8
2	(1)	ウ	56.1
3	5	(例) 低い賃金で労働者を雇用する	
	(2)		65.3

問	備 考
1	5(2) 「賃金」が用いられていること。
2	1 記号と県名が両方でできて正答とする。 2 「モンスーン」でもよい。 3(2) 記号とXが両方でできて正答とする。
3	4(1) *の正答については、順序は問わない。両方でできて正答とする。

2		18	
1	記号 エ	県名 富山 県	44.5
2	季節風		79.8
(1)	エ		94.2
3	記号	ア	
(2)	X	(例) 気温差が大きい	43.9
(1)	イ		70.5
(2)	ウ		48.6

3		17	
1	渡来人		74.6
2	(例) 娘を天皇のきさき		
			82.1
(1)	倭寇		37.6
3	(2)	(例) 納めるかわりに営業を独占	
			30.6
(1)	*イ	*カ	60.7
(2)	朝貢		37.6

18		4	
2	1	イギリス	78.0
2	2	エ	72.3
3	3	(例) 地価の3%を現金で納めさせる	
			50.9
3	4	ワシントン会議	49.1
2	5	イ	52.6
3	6	(例) 政府が地主の農地を買い上げ、小作人に安く売りわたしたから。	
			53.8
3	7	吉田茂	49.1

問	備 考
4	3 「地価」「現金」が用いられていること。
5	2(1) 「衆議院と参議院の意見が一致しなかった」などでもよい。
6	1(1) 「PL法」でもよい。 3(2) 「格差」が用いられていること。「地方公共団体間の格差を減らす」などでもよい。

5		15	
(1)	ウ		96.5
(2)	請願権		26.0
(1)	(例) 衆議院と参議院の議決が異なった		
2			43.9
(2)	両院協議会		32.9
3	閣議		50.3
4	独立		63.6
5	エ		23.7

6		15	
(1)	製造物責任法		75.1
(2)	ア		76.3
(1)	新興国		38.2
(2)	ウ		80.9
(1)	公的扶助		44.5
(2)	(例) 地方公共団体の間の財政の格差を調整する		
			72.8

数 学

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の4は、文字を用いた式で数量の関係を捉え、判断する力をみる問題だが、正答率が約6割であり、学習の成果がみえる。事象の中に数量の関係を見だし、文字を用いた式で表したり、その意味を読み取ったりする力を確実に身に付けたい。②の3(1)は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率が高く、学習の成果がみえる。方程式を活用するに当たっては、その立式の段階が重要である。事象の中の数量や数量の関係を式に表す力を確実に身に付けたい。③の1は、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、考察し表現する力をみる問題だが、(1)と(2)のグラフの正答率はともに7割を超えており、学習の成果がみえる。関数の特徴を、表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで、関数についての理解を深めたい。

(2) 課題がみえる問題

①の3は、確率を求める力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。樹形図や表などを利用して、起こり得る場合の数を基に確率を求める力を身に付けたい。②の2は、相似な図形の性質を用いて、判断の根拠を的確に表現する力をみる問題だが、5割以上得点した受検者は全体の41.8%であり、課題がみえる。数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合う活動を通して、数学的に表現することのよさを実感できるようにしたい。③の2は、グラフの特徴を読み取り、事象を考察する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。事象を理想化したり単純化したりすることによって、二つの数量の関係を一次関数とみなし、変化や対応の様子を考察したり予測したりできるようにしたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習したことを活用するために、数学的活動に主体的に取り組むことができる

授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、生徒自らが、既習内容とのつながりなどを基に問題を見だし、その解決に向けて取り組むことができる。

(2) 授業以外の日常生活の様々な場面で、学習したことを活用することができる

授業の中だけでなく、日常生活の様々な場面でも、学習したことを積極的に活用して考えたり判断したりすることができる。

(3) 授業者は、生徒が数学を学ぶ楽しさやよさの実感につながる振り返りの充実を

生徒が自己の変容や数学的な見方・考え方のよさを実感できるように、指導計画の中に振り返りの場を効果的に位置付けたり、振り返る視点を与えたりしたい。さらに、生徒の数学的な見方・考え方を広げるため、振り返りの共有などを行う機会を設けたい。

1		32		1	
	3	(1)	2	93.6	
	4	(2)	$-\frac{1}{4}$	80.8	
	4	(3)	$-3xy$	65.1	
	4	(4)	$3+4\sqrt{2}$	73.8	
	5	2	$(2x-3)(x+4)=x-2$ (例) $2x^2+8x-3x-12=x-2$ $2x^2+4x-10=0$ $x^2+2x-5=0$ $x = \frac{-2 \pm \sqrt{2^2 - 4 \times 1 \times (-5)}}{2 \times 1}$ $= \frac{-2 \pm \sqrt{24}}{2}$ $= \frac{-2 \pm 2\sqrt{6}}{2}$ $= -1 \pm \sqrt{6}$	73.8	
	4	3	$\frac{5}{9}$	36.6	
	4	4	イ, エ	59.9	
	4	5	ウ	53.5	

2		29		2							
	1	(1)	-4	58.7	4						
	1	(2)	1	43.0	4						
	2	ア	(例) 27:64であるから、立体Pと立体Qの体積比は、27:37となる。	<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>30.8</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>20.3</td> </tr> </table>	100%	30.8	50~99%	11.0	1~49%	20.3	6
100%	30.8										
50~99%	11.0										
1~49%	20.3										
	2	イ	立体Q								
	3	(1)	(例) 18歳の有権者を x 人とする。 $\frac{55}{100}x + \frac{45}{100}(1200-x) = 598$ (例) 18歳の有権者を x 人, 19歳の有権者を y 人とする。 $\begin{cases} x+y=1200 \\ \frac{55}{100}x + \frac{45}{100}y = 598 \end{cases}$	77.9	6						
	3	(2)	319 人	34.3	4						
	4			75.6	5						

3		21		3	
	3	(1)	180 m	74.4	
	3	ア	$y = 20x + 100$	59.3	
	3	イ	10	76.7	
	3	ウ	$y = -50x + 780$	38.4	
	3	1	図 	70.9	
	3	2	エ	330	14.0
	3	2	オ	36	18.6

4		18		4						
	1	<証明> (例) $\triangle ABE$ と $\triangle ACD$ において 弧ADに対する円周角は等しいから $\angle ABE = \angle ACD$ ① 仮定より $\angle BAC = \angle DAE$ ② また $\angle BAE = \angle BAC + \angle CAE$ ③ $\angle CAD = \angle DAE + \angle CAE$ ④ ②, ③, ④より $\angle BAE = \angle CAD$ ⑤ ①, ⑤より, 2組の角がそれぞれ等しいので $\triangle ABE \sim \triangle ACD$	<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>37.8</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>23.3</td> </tr> </table>	100%	37.8	50~99%	6.4	1~49%	23.3	9
100%	37.8									
50~99%	6.4									
1~49%	23.3									
	2	(1)	$\frac{9}{4}$ cm	27.3	4					
	2	(2)	$\frac{21}{20}$ cm	4.1	5					

問	備 考
1	4 すべてできて正答とする。順序は問わない。

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

理 科

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の3(1)、④の1、④の3、⑥の2は、第1分野及び第2分野についての基本的な知識をみる問題だが、正答率はいずれも約9割と高く、学習の成果がみえる。学習の基礎となる科学的な知識や基本的な概念が定着していることがうかがわれる。①の3(2)や⑧の2(1)は、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。科学的に探究するために必要な観察、実験の基本的な技能が身に付いていることがうかがわれる。⑤の2は、実験の結果を分析・解釈する力をみる問題だが、正答率は約8割と高かった。今後、探究の過程を通じた学習活動を充実させるように心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

③の4は、実験を振り返って改善策を考える力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。理科の見方・考え方を働かせながら、科学的な根拠に基づいて、仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案する学習活動を充実させるように心掛けたい。⑤の3は、実験の結果を分析して解釈し、見いだした関係性や傾向を基に考察する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。実験の結果と、分析して解釈したことの両方を示して表現する学習活動の充実を図りたい。⑥の4は、中和反応について、イオンのモデルと関連付けて表現する問題だが、正答率が3割を下回った。化学変化について、原子や分子のモデルを用いて考察し、目に見えない原子や分子をイメージしやすいように工夫して表現するなどの学習活動を充実させたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 科学的な知識や概念を使用したり、日常生活や社会と関連付けたりできる

自然の事物・現象に関して、科学的な知識や概念を使用して説明したり、日常生活や社会と関連付けて科学的に考察したりすることができる。

(2) 見通しをもって観察・実験を行い、考察したことを科学的に表現できる

観察・実験の目的を自ら考え、根拠のある予想や仮説を立て、結果を見通した検証計画が立案できる。観察・実験の結果を基に課題に正対した考察を行い、その内容を科学的な概念を使用し、適切に表現することができる。

(3) 授業者は、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する指導計画と、指導と評価を一体化させた学習指導の工夫を

授業者は、生徒の興味・関心を高められるような事物・現象を題材にして、単元で育成を目指す資質・能力を明確にし、探究（問題解決）の過程を効果的に位置付けた指導計画を作成したい。また、指導と評価の一体化を図るため、学習の成立を促すための評価という視点を重視することによって、指導のねらいに応じて生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを大切にしたい。

1		12		1	
	3	1	胞子のう	70.9	
	3	2	(例) 体を固定する	72.7	
	3	3	(1) イ	87.8	
	3		(2) 双子葉	82.6	

2		13		2	
	3	1	(1) ウ, エ	68.6	
	2		(2) 血しょう	54.7	
	3	2	(1) エ	70.9	
	2		b 組織	78.5	
	3		(2) c (例) 遺伝子をそのまま受けつぐ	84.3	

問	備 考
2	1 (1) すべてできて正答とする。順序は問わない。 2 (2) c 「遺伝子」が用いられていること。

3		12	
1	84	77.9	3
2	ア	77.9	3
3	(例) 露点に達した	68.6	3
4	イ, ウ	9.9	3

4		13	
1	恒星	89.0	2
2	ウ	36.6	2
3	(例) (黒点はまわりに比べて,) 温度が低いため。	91.9	3
4	ア	52.3	3
5	3 倍	28.5	3

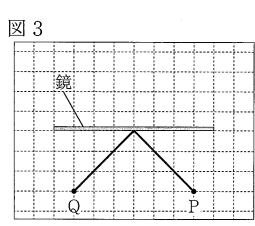
問	備 考
3	4 すべてできて正答とする。順序は問わない。

5		13		5	
	2	1	(1) 融点	59.9	
	2		(2) イ, オ	43.0	
	3	2	エ	82.6	
	3	3	0.91 g/cm ³	14.5	
	3	4	(例) (固体のロウは,) 液体のロウよりも密度が大きい ため。	76.7	

6		12		6	
	3	1	ウ	76.7	
	3	2	ア	85.5	
	3	3	HCl + NaOH → NaCl + H ₂ O	53.5	
	3	4	a *Na ⁺ b *H ⁺	25.6	

問	備 考
5	1 (2) すべてできて正答とする。順序は問わない。 4 「密度」が用いられていること。
6	4 *の正答については、両方できて正答とする。

7		12	
1	電磁誘導	66.9	3
2	(1) (例) 変化が大きくなる	32.0	3
	(2) イ	60.5	3
3	交流	59.3	3

8		13		
1	(1) ア	46.5	3	
	(2) 50 度	41.9	3	
2	(1)	 <p>図3</p>	80.2	3
	(2)	青色 → 黄色 → 赤色 → 茶色	54.7	4

問	備 考
7	2 (1) 「変化が速くなる」などでもよい。

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

英 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の2のNo.2は、日常的な話題に関するスピーチを聞いて、要点を把握する力をみる問題だが、約7割の正答率であり、学習の成果がみえる。一つの話題に沿って話される首尾一貫した内容を最初から最後まで聞き、話し手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉えることができるようになってきていることがうかがわれる。④の1は、要点を捉える力をみる問題だが、正答率が高く、学習の成果がみえる。⑤は、日常的な話題について、英語を読んで得られた情報を活用し、自分の考えを表現する力をみる問題だが、正答率が高く、学習の成果がみえる。今後も、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成し、表現する学習を心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

①の1のNo.2は、日常的な話題について、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力をみる問題だが、正答率は3割を下回った。聞き取った情報を基に、思考して判断するような学習を心掛けたい。②の1(1)は、基本的な言語材料を場面に応じて適切に活用する力をみる問題で、小学校で学習した語彙が扱われているが、正答率は低かった。小学校で学んだ簡単な語句や基本的な表現も積極的に用いることで、それらの定着が深まるようにしたい。④の5は、まとまりのある文章を読んで、概要を把握する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。まとまりのある文章を読む際は、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、全体のあらすじを捉える学習を心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 英語を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えることができる

目的や場面、状況などに応じて、何を聞き取らなければならないか、あるいは読み取らなければならないかを判断し、「聞くこと」や「読むこと」を通して、必要な情報や大まかな内容、大切な部分を理解することができる。

(2) 英語で聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えや気持ちなどを英語で伝えることができる

「聞くこと」や「読むこと」を通して理解した情報や考えなどを基に、伝えるべき内容を既存の知識や体験などとも関連付けながら判断し、「話すこと」や「書くこと」を通して表現することができる。

(3) 授業者は、育成を目指す資質・能力を明確にし、言語活動を通じた指導や発達段階に応じた指導の充実を

学年・領域別の目標に基づいて、単元や本時の明確な目標を設定し、生徒にとってコミュニケーションを行う必然性のある言語活動をその単元や本時の中心に位置付けたい。また、小学校で行った言語活動を踏まえて繰り返し指導したり、類似の場面を取り上げて想起させたりしながら、活用と定着を促したい。

1		26		1	
	3	1	No.1	エ	83.7
	3		No.2	イ	25.0
	3	2	No.1	ウ	83.7
	3		No.2	エ	68.6
	3		ア	beautiful	73.3
	3		イ	mountains	61.6
	3	3	ウ	fishing	65.7
	5		エ	He especially ((例) enjoys quiet spring) mornings at the lake.	68.0

問	備考
1	3 エ 対話文に即した内容であること。
2	3 (1) 全部できて正答とする。 (2) 全部できて正答とする。
3	1 対話文に即した内容であること。 3 *の正答については、順序は問わない。

2		18	
	(1)	August	49.4
1	(2)	where	66.3
	(3)	without	17.4
2	(1)	ア	74.4
	(2)	エ	61.6
3	(1)	X ウ Y オ Z ア	24.4
	(2)	X エ Y イ Z ウ	40.7

3		16	
1	(例) 海外の多くの人々が盆栽の作り方を学んでいること。	77.3	4
2	X	イタリア	79.7
	Y	スペイン	78.5
	Z	イギリス	75.6
3	*イ	68.6	3
	*オ	62.8	3

4		30		4	
	3	1	ウ	68.6	
	4	2	(D)	61.0	
	4	3	(例) 健さんから日本文化についてもっと聞きたいということ。	52.3	
	3	4	(例) He studied Chinese. (1)	68.0	
	3		(例) Yes, he is. (2)	55.8	
	5	5	エ → ア → オ → イ → ウ	40.1	
	4	6	I ((例) It was hard for 25.6) me to speak in front of them.		
	4		II I believe everyone understood that our ((例) mistakes help us learn 12.8) .		

問	備考
4	3 本文に即した内容であること。 4 本文に即した内容であること。 5 全部できて正答とする。 6 4語以上の英語で、本文及び対話文の文脈に合う内容であること。

5		10	
【評価の観点】		(1) 内容	
		○ 話題について、自分の考えやその理由などが明確に述べられているか。	
		○ 25語以上で、まとまりのある文章になるように書いているか。	
		(2) 正確さ	
		○ 文字や符号を識別し、語と語の区切りや語の綴りなどに注意して、正しく書いているか。	
		○ 文構造や文法事項などの知識を活用して、正しく書いているか。	
		正答率	84.9

問	備考
5	(例) I like eating at home better because cooking with my family is fun. I enjoy learning how to cook with them. The food we cook together is always delicious.

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

令和8年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況 (入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等)

1 年度別比較

年 度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
中学校卒業生数		9,324	9,159	8,927	8,677	8,594	
全 日 制	県 立	入学定員	6,600	6,480	6,280	6,280	6,240
		入学志願者等の数	5,554	5,343	4,974	5,086	4,770
		倍 率	0.84	0.82	0.79	0.81	0.76
		合格者等の数	5,261	5,024	4,810	4,813	4,690
		最終倍率	0.83	0.81	0.78	0.80	0.76
		充足率	79.7%	77.5%	76.6%	76.6%	75.2%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者等の数	331	338	375	371	318
		倍 率	1.18	1.21	1.34	1.33	1.14
		合格者等の数	282	280	282	281	281
		最終倍率	1.18	1.20	1.34	1.32	1.14
		充足率	100.7%	100.0%	100.7%	100.4%	100.4%
	合 計	入学定員	6,880	6,760	6,560	6,560	6,520
		入学志願者等の数	5,885	5,681	5,349	5,457	5,088
		倍 率	0.86	0.84	0.82	0.83	0.78
		合格者等の数	5,543	5,304	5,092	5,094	4,971
		最終倍率	0.85	0.83	0.80	0.82	0.78
		充足率	80.6%	78.5%	77.6%	77.7%	76.2%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者等の数	130	133	158	139	148	
	倍 率	0.46	0.48	0.56	0.50	0.53	
	合格者等の数	125	130	152	134	147	
	最終倍率	0.45	0.47	0.55	0.49	0.53	
	充足率	44.6%	46.4%	54.3%	47.9%	52.5%	
総 計	入学定員	7,160	7,040	6,840	6,840	6,800	
	入学志願者等の数	6,015	5,814	5,507	5,596	5,236	
	倍 率	0.84	0.83	0.81	0.82	0.77	
	合格者等の数	5,668	5,434	5,244	5,228	5,118	
	最終倍率	0.83	0.81	0.79	0.81	0.77	
	充足率	79.2%	77.2%	76.7%	76.4%	75.3%	

(注)

- (1) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年と義務教育学校9学年の生徒数の合計とする。
- (2) 入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 倍率＝入学志願者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
- (6) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100
- (7) 令和7年度までは、推薦入学者選抜、一般入学者選抜等を実施

2 課程別・学科別

課程	区分	入学定員		受検者等の数		合格者等の数		
	学科	人数	前年度比	人数	最終倍率	人数	充足率	
全 日 制	普通	3,080	▲ 120	2,482	0.81	2,552	82.9%	
	専門教育を主とする学科	理数	120	0	113	0.94	89	74.2%
		探究	320	80	365	1.14	272	85.0%
		音楽	40	0	13	0.33	13	32.5%
		体育	80	0	85	1.06	80	100.0%
		農業	360	0	203	0.56	203	56.4%
		工業	1,120	0	761	0.68	748	66.8%
		商業	560	0	505	0.90	470	83.9%
		水産	40	0	19	0.48	19	47.5%
		家庭	80	0	59	0.74	59	73.8%
		看護	40	0	41	1.03	40	100.0%
		情報	40	0	27	0.68	27	67.5%
	総合	640	0	399	0.62	399	62.3%	
	合計	6,520	▲ 40	5,072	0.78	4,971	76.2%	
定 時 制	普通	200	0	112	0.56	112	56.0%	
	総合	80	0	36	0.45	35	43.8%	
	合計	280	0	148	0.53	147	52.5%	
全定合計		6,800	▲ 40	5,220	0.77	5,118	75.3%	

(注)

- (1) 受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (2) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
- (3) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (4) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100

